

体験型海外教育実地研究 第5学年 異文化理解

「Let's study from Japanese sweets!」

教育学研究科 学習科学専攻 カリキュラム開発専修 河合 彩華

1 はじめに

私が、体験型海外実地研究に参加しようと思ったきっかけは、過去に本プログラムに参加した先輩に体験談を聞いたことである。先輩に、英語で子どもたちに授業をしたことや現地の小学校を見学することを聞き、私も外国の子どもたちに授業をし、学校を訪問してみたいと思った。また、これまでに何度か海外旅行を経験していて、もっといろいろな国に行ってその国の文化を知りたいと思っていた。アメリカには行ったことがなかったため、行ってみたいという気持ちが強かった。4月の説明会に参加し、貴重な経験となることを再認識し、参加することを決めた。

2 実地研究の日程と概要

月日	曜	交通等	訪問地・用務等	宿泊地
4/24	水	渡航までの日程, パスポート, ESTA, 授業研究テーマ事例,		部屋割り
5/15	水	授業研究テーマ案の交流・テーマの設定		
6/6	木	学習指導案の検討		
6/11	火	学習指導案の検討		
6/24	月	学習指導案(英語版)の検討		
7/1	月	学習指導案(英語版)の検討		
7/6	土	第9回学校間交流国際フォーラム		
7/7	日	ワークショップ: 学習指導案および教材・教具の検討		
7/22	月	保険説明(学習指導案の検討, 指導案の提出について)		
7/23	火	保険説明(学習指導案の検討, 指導案の提出について)		
8/26	月	準備状況確認, 報告書・教材集・発表会について, 渡航準備・関係書類提出		
9/9	月	最終事前打ち合わせ(準備状況, 準備物・集合時刻等の確認)		
9/14	土	広島-成田 0755-0935 (NH-3236) 成田-ワシントン ダラス 1105-1040 (NH-2) ワシントン ダラス-ローリー 1220-1329 (UA-4880) 空港 - (ウォーレン先生・ECU バス) →City Hotel & Bistro		アメリカ・ノースカロライナ州 City Hotel & Bistro 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 TEL(877)2712616 Greenville
9/15	日	(ウォーレン先生・バス)	ミーティング, ホテルにて教材作り 各学校の先生方と事前打ち合わせ レセプションパーティ	Greenville 同上

9/16	月	City Hotel →Elmhurst 小学校へ (ウォーレン先生・バス)	学校訪問 (Elmhurst 小学校) 副校長先生による学校についての説明 校内見学 担任の先生と授業についての打ち合わせ iTeach で買い物 ECU の学生と夕食	Greenville 同上
9/17	火	City Hotel →Elmhurst 小学校へ (ウォーレン先生・バス)	学校訪問 (Elmhurst 小学校) 授業実践 (河合 : 45 分授業) 授業参観 (天野) 子どもたちと昼食 夕食は ECU Pirate Club でそれぞれの学校の先生方とリフレクションをする	Greenville 同上
9/18	水	City Hotel → ECU (ウォーレン先生・ECUバス) ECU → ローリー (ECUバス)	午前 ECU の講義に参加 午後 ローリーへ移動 自然史博物館を見学する。	ノースカロライナ州 Clarion Hotel State Capital 320 Hillsborough Street Raleigh, NC 27603 TEL(919)8320501 Raleigh
9/19	木	徒歩で, Exploris M.S.へ	学校訪問(Exploris M.S.) 午後 ローリー市内見学 歴史博物館, マーブル博物館を見学する。	Raleigh (同上)
9/20	金	ローリー-ワシントン ダラス 1021-1134 (UA-4887) (空港-ホテル間はタクシー)	ワシントンへ移動 アメリカ文化体験	Washington Plaza 10 Thomas Circle, Northwest, Washington,DC 20005-4176 TEL (202)8421300 Washington, DC
9/21	土	徒歩	アメリカ文化体験・Book Fair スミソニアン博物館, リンカーン像を見学する。	Washington DC(同上)
9/22	日	ワシントンダラス-成田 1220-1525 (NH-1)		
9/23	月	成田-広島 1740-1915 (NH-3237)		

3 実地研究授業

3.1 単元名 第5学年 異文化理解「Let's study from Japanese sweets!」

3.2 事前準備

① 単元設定の理由

本授業のねらいは、①日本の伝統的なお菓子である和菓子を、児童が普段食べているお菓子と比較し、違いを考えることで理解する。②シンキングマップを作る活動を通して、「おもてなし」の心は日米共通であることを知る。の2点である。児童にとって身近であり、魅力ある存在であるお菓子を教材にすることで、児童に興味・関心をもたせたかったという思いがある。和菓子1つ1つを作っている（練りきり）映像は児童たちの普段の生活では見ることのできない様子である。これらの独特の様子を見せることで、日本独自の文化について理解を深めることができるのではないかと考え、単元を設定した。

② 準備したこと

授業で実際に和菓子に触れ、食べてもらうために、京都の和菓子屋で和菓子を購入した。包装や箱などができるだけ日本らしいものを選ぶようにした。また、和菓子を作る職人の様子を視覚的に見せたいと思い、映像を用意した。

3.3 学習指導案

Lesson Title : Let's study from Japanese sweets!

Lesson Author : Ayaka Kawai

Date : September 17th, 2013

Grade Level : 5th grade

Subject : Culture

Description : In this class, students learn about Japanese traditional sweets through comparing sweets in each country and eating Japanese traditional sweets. Students think about “Omotenashi” mind through watching movie about making Japanese traditional sweets.

Objectives: As the result of the activity, students will be able to

- 1, Learn about Japanese traditional sweets through comparing sweets in each country.
- 2, Think about “Omotenashi” mind through making a thinking map.

Teaching process :

Activity	Instruction of teacher	Materials
1, Introduce myself 2, Divide the picture of sweets.	2, Teacher ask why they divide the picture of sweets into two groups. Write their opinion in the thinking map.	Some picture of different sweets. Thinking map

3, Know about Japanese sweets. Think about the feature of Japanese sweets.	3, Introduce to Japanese traditional sweets. Ask what is the future of Japanese sweets by seeing or touching them.	Japanese sweets
4, Eating Japanese sweets.	4, Ask them impressions of eating Japanese sweets. Ask them the difference Japanese sweets and American sweets.	Japanese sweets
5, Watch the movie of making Japanese sweets.	5, Watch good skill of workman making Japanese sweets. Ask a question why he make it carefully. Think about the mind of him.	Movie of making Japanese sweets
6, Think about the mind “Omotenashi”.	6, Know that the workman put their entertainment into their Japanese sweets. Realize that “Omotenashi “ is common mind all over the world. Understand “Omotenashi” in America, for example home parties.	

3.4 授業の実際

- (1) 自己紹介後、和菓子と洋菓子の写真のカードを2つのグループに分類するゲームを行う。ゲーム説明がうまくできなかったため、児童を混乱させてしまった。1人1人にカードを配付し、全員がカードを分類させた後、各自分類の仕方と理由を発表させる。
- (2) ゲームの答え合わせをし、和菓子を紹介する。今日の学習では児童が普段食べているお菓子和菓子と比較しながら、和菓子を理解していくことを説明する。
- (3) 実際の和菓子を観察させ、気付いたことをシンキングマップに書かせる。児童に和菓子の箱を見せると、「わお！」と驚く様子や美しさに感動する様子が見られた。色遣いや大きさ、包装などにも着目して観察していた。
- (4) 実際に和菓子を食べ、気付いたことをシンキングマップに書かせる。「美味しい」という児童が多く、「和菓子のほうが甘い」と言う感想もあった。



- (5) 和菓子づくりの映像を流し、1つ1つ丁寧に手作業で作る過程を見せた。児童は和菓子を作っている様子を真剣に見ていた。
- (6) 「なぜ和菓子職人は1つ1つ丁寧に作っているのだろうか？」と発問する。職人が食べる

人を喜ばせようとする「おもてなし」の心について説明する。質問がうまく伝わらず、「おもてなし」について強引に説明してしまった。

- (7) 『おもてなし』の心は和菓子にだけ含まれているのだろうか?と発問する。児童に考えさせる。「おもてなし」の心は日米のお菓子どちらにも共通することであると説明する。

3.5 考察

本実践で得られた成果と反省は以下の通りである。まず良かった点は、授業の中で、子どもたちが和菓子を食べたり、作っている人の映像を見るというような活動を取り入れたことである。これらによって、子どもたちは興味を持ちながら和菓子について理解することができたように思う。また、シンキングマップを使用したことで、児童が自由に気付きを記述することができ、それらの気付きが共有しやすくなった。エルムファースト小学校では、シンキングマップを積極的に授業で活用している。シンキングマップについての説明を十分にしなくても子どもたちは理解してくれたおかげで、活動をスムーズにすすめることができた。



反省点は、自分の語彙力不足から、児童の意見を理解し、引き出すことができなかった点である。ゲームの説明が十分にできず、児童を混乱させてしまった。また、授業の山場となる「おもてなし」の概念についても児童の意見を引き出すことができず、強引に概念の説明をしてしまった。自分にもっと語彙力があれば、子どもたちの意見を反映することのできる授業になったのではないかと考えられる。また、黒板にシンキングマップを貼り、子どもたちの気付きは見やすくなり、共有することはできたが、それに満足してしまったことも反省として挙げられる。子どもたちの記述した気付きに対して、記述した理由などを児童の言葉で説明させることで学習が深まったのではないかと考えられる。

4 体験型教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

今回エルムファースト小学校と、エクスプローリス中学校の2校に訪問したが、両校とも教室の環境が印象強かった。教室内がカラフルに装飾されており、机などの配置も自由であった。同じ授業であっても、子どもたち1人1人がそれぞれの課題に取り組むというような学習も多く見られた。日本と比べてクラスの団結さは薄いように感じたが、子どもの作品や疑問に思っていることなどを多く掲示してあるのを見て、全員の取り組みや意見を共有させようとする意図が強く感じられた。それに加え、子どもたちの思考を共有するには、シンキングマップは有効であると感じた。学習内容や状況に合わせて、いろいろなシンキングマップを用いることは、子どもたちにとって思考の順番や系統を考えやすく、教師にとっても子どもの思考のプロセスを見ることができる。私も教員になったときに積極的にこのようなマップを使っていきたいと感じた。そしてこのように思考を図式化することは、日本でもされていることではあるが、改

めて重要だと感じた。

4.2 自分自身についての変容

私は自分の英語力に自信が持てず、不安を抱えながら出発した。しかし、授業をしてみて、「相手の意見を理解したい」「相手に伝えたい」という気持ちが強くなった。また、一緒に GPSC に参加した学生の積極的に話す姿勢を見て、私も挑戦してみようと感じた。その後学校だけでなく、お店などで積極的に会話をするうちに、会話をするのが楽しくなった。このように、話さなければならない状況に立ち、周りの学生に感化される機会があった GPSC だったからこそ、このように自分が変わったのかもしれないと思った。



4.3 グローバルマインドに関する変容

今回の GPSC に参加して、コミュニケーションにおいて大切なことを考えることができた。確かに私自身、語彙力のなさを痛感し、英語の習得は大切であると感じた。しかし、たとえ英語が話せても、コミュニケーションができるとは限らないと感じた。相手に関心を持ち、相手を理解することがコミュニケーションの土台にあり、それが何より重要であると感じた。お互いに伝えようとする気持ちと聞こうとする気持ちがあれば、文化や言語が違う環境でも会話ができると考えた。このような経験をふまえ、自分が教師になったら、子どもたちにはこのような人間理解の努力の大切さを教えたいし、身につけさせたいと感じた。

5 おわりに

このプログラムに参加して、アメリカという文化に触れるだけでなく、授業実践や学校訪問、ECU の大学生との交流など多くの貴重な経験ができた。さらに、自分自身や、教育について問い直すきっかけができた。海外旅行で行くよりも何倍も実りのある旅になったのではないかと思う。これらの経験は、今後の人生、特に教員としての人生の糧になるであろう。こう思えることができたのも、渡航までの準備から、現地でのサポートをいただいた小原先生をはじめとした GPSC の諸先生方、授業実践の際支えてくださった現地の諸先生方のおかげである。今一度 GPSC 関係者の方々に心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。